

みんなで作ろう!

# 周期表グッズ

とことろ  
野老実験クラブ代表  
佐藤康子さん



1980年東京理科大学、大手化学メーカー（三菱化成工業＝現三菱ケミカル）勤務後、出産のため退職。中高一貫校の化学の教師などをしながら1996年から埼玉県科学教育ボランティアを始める。2011年に市民団体「野老（とことろ）実験クラブ」を立ち上げ地元で科学教室を行う。バタバタ進化版「からくるりん周期表」を開発。国際周期表年の巡回展や閉会式で「からくるりん」と周期表のペーパークラフトを展示した。イチ押し元素は、窒素。健康に深く関わるアミノ酸の構成元素だから。子どもたちにお奨めしたい本は「小さな小さな世界」（かこさとし著）という絵本だそうです。

グッズのなかでもいちばん古くからあり、そして佐藤さんの最高傑作は、テレビで見ただからくり屏風に刺激されて思いついた「からくるりん」周期表。くるりんという言葉の感じのとおり、紙でできた小さな屏風を中心からなんかいも折りかえしていくと、次々に元素記号があらわれる仕掛け。最初は5行5列でしたが、進化をとげつつ今では9行11列のフルバージョンに。最初は画用紙でしたが、夢中になった子どもたちが遊び続けると破れたり切れたりしてしまうため紙質にも工夫を重ねてきました。

元素周期表をもとにして、こんなにもアイデアにとんだグッズがつけられるというのは驚きです。佐藤康子さんは、科学の楽しみを伝える市民団体「野老実験クラブ」の代表を務めていますが、その活動の一環としてたかさんの周期表グッズをつくってききました。去年は国際周期表年という世界的にとっても大切な記念の年でした。その記念行事が日本でも開かれましたが、佐藤さんと周期表グッズたちはいるるる所に呼ばれて、とても忙しかったようです。



「からくるりん」は1枚のプリントされた紙からつくられていく



小さな屏風を中心からなんかいも折りかえしていくと、次々に元素記号があらわれる

佐藤さんがからくるりんにはまったのはいるるるるとの出会いがあったからだそうです。たとえばクラブのメンバーで、「周期表オタク」の中村さんや、日本で周期表といえば知らない人のいない玉尾皓平先生です。玉尾先生は「一家に一枚周期表」を推し進めていることでも有名です。そんな人たちからの励ましやアドバイスを受けて、からくるりんは進化し、そしてグッズはそれ以外にも広がってきたのです。クリスマスツリーや富士山初日の出、こいのぼり、提灯、月見団子など日本の一年の行事にまつわるものや扇子などを作成しています。これらは主に紙を材料にして自分の手でつくるものですが、このほかに、周期表エプロンと周期表風呂敷をオリジナルグッズを製作してくれるお店で作ったりしています。いま考えている新しいアイデアは「マスクに元素記号を入れられないかな」ということ。

周期表グッズをつくる楽しみは、ワークショップなどに子どもを連れてきたお父さんお母さんたちが、自分たちが小さいときにこういうのがあればもっと理科に興味をもったのになあと行ってもらえること。周期表はとつき

最後に佐藤さんから子どもたちへのメッセージをもらいました。「科学に限らず、好きなものがなにかひとつあるといいですね。すると、ああこれが好きだ、って道がひらけることもある。好きなものがあって、あきらめないでやっていくと、『神様が電話してくれた』って思えるようなすてきな出会いがあるんじゃないでしょうか。」



ひな壇



こいのぼり



富士山初日の出



扇子

「からくるりん」に興味のある人はこちらへ。  
[http://tokoro-jikken.net/?page\\_id=110](http://tokoro-jikken.net/?page_id=110)